

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2770302004
法人名	特定非営利活動法人 緑樹会
事業所名	グループホーム緑樹
所在地	寝屋川市梅が丘2丁目26番1号 (電話) 072-820-1620
評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 19年 11月 17日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12人	常勤	2人, 非常勤 10人, 常勤換算 4.8人

(2) 建物概要

建物構造	重量木骨SE構法 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000円 (生保受給者 42,000円)	その他の経費(月額)	約8,000円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 400円
	夕食	500円	おやつ 0円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19年 10月 31日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	11名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.2歳	最低	65歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おくだクリニック(内科他)、もりした歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

最寄り駅よりほど近く、緑豊かな丘陵地に建てられたホームです。理事長は長年育んできた福祉事業に対する思いからNPO法人を設立し、利用者の経済的負担にも考慮しています。家庭的な安堵感のある生活環境作りや、人としての尊厳を守ることを理念に取り組んでおり、職員は優しさと温かな介護を目指して努力をしています。ホームは建物の1・2階を利用した2ユニットです。食事は3食共ホーム内で調理し、利用者も参加して楽しんでます。玄関周辺には花や野菜が植えられ、季節感や収穫の楽しみを味わっています。ホームでは近隣からの介護についての相談を受け、近隣の方から野菜を届けてもらったり、犬の散歩で立ち寄ってもらったりと交流があり、地域との良い関係が構築されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)</p> <p>前回評価での課題はすべて改善されています。施錠については職員の理解と工夫によって、日中は施錠しないことが基本スタイルになりました。また、金銭管理についても家族に報告すると共に、確認の記名がありました。介護計画については定期的なモニタリングを行って記録し、見直し時に活かしています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>フロアリーダーが各自で自己評価票を記入し、それを持ちよって仕上げる過程で、職員全員が評価の意義を理解し、問題意識を持ったり、努力の成果を確認したりする機会にしています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では前回の外部評価結果と改善に向けての取り組みを説明しています。会議メンバーの情報提供により、地元自治会の主催する防災訓練に職員が参加し、今後の相互扶助の足がかりにしています。運営推進会議でこども110番やAEDの設置要望があり、検討事項にして、ホームが地域や社会から孤立せず共に向上する取り組みが見られます。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関脇に手作りの意見箱を設置しています。家族の訪問時には職員が声をかけて苦情や意見を聞くようにしています。また納涼祭等、行事に家族が参加したときにも話を聞いています。運営推進会議にも家族の参加を得ており、その際にも様々な意見を表出してもらい、今後のホーム運営に活かせるよう検討しています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の自治会に入会しています。集会所で開かれる月例の喫茶店に月2回参加したり、貸し農園で野菜を作っている方が大根や白菜などを届けてくれたり、犬の散歩で立ち寄ってくれたりと交流しています。また、駅前のスーパーに買い物に行く時も挨拶を交わしています。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に家庭的な安堵感のある生活環境作りをすすめます。人としての尊厳を守りプライバシーを尊重しその人らしく過ごせる支援をすすめます。健やかに生き生きとした日常生活と利用料等経済的負担の軽減により安心と信頼の『緑樹』づくりをすすめます」という事業所独自の理念をリビングに掲げ、行動指針にしています。	○	理念には新しい取り組みとして地域密着型サービスとして、ホームの役割を目指した内容が求められます。また、重要事項説明書、パンフレットや利用案内文等で明示されることが求められます。
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が明文化され、ホーム内の日常的に目にする場所に掲示されています。職員には日々の業務の中で確認し、新任研修の時には説明、周知するよう伝えています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	施設は自治会に加入しており、近隣とも交流があります。地域の集会所で月2回喫茶店が開かれており、1ヶ月に2回、希望者が参加しています。近くの方が大根、人参、白菜、インゲンなどを届けてくださったり、犬の散歩中に立ち寄って利用者と会話を楽しんだりして顔なじみになっている方もいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長、管理者、職員は評価の意義や目的を共有し、それらを活かす内容について取り組んでいます。自己評価票も作成し、ケアを振り返り、環境整備の見直しなど改善点にも取り組んでいます。外部評価結果は来訪者にも提示しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の規定、規約を作成し、会議録には出席者も記載しています。会議内で地域からの提案により、災害時には近隣の小学校を避難場所にすることとなり、避難場所には備蓄の用意があると説明がありました。運営推進会議はこれまでに1回開催され、次回の開催も決まっています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の委員としても参加してもらうなど、市の高齢介護室担当者とは日々情報交換に務め、連絡を取り合っています。また、生活保護担当者を訪問し、インフルエンザ補助の件などの情報を得たりしています。今後、第三者委員の訪問についても検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「緑樹だより」を3ヶ月に1回発行し、利用者の様子を伝えています。また、行事案内も行っています。家族の来訪時には近況を伝えると共に個別の金銭出納帳を明示し、家族に確認を得ています。また確認の署名もありました。職員の異動、退職などについては「緑樹だより」に記載し、伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に手作りの意見箱を設置しています。また、家族の来訪時には意見を表出してもらえるような雰囲気作りをしています。要望のあった内容は連絡ノートに記載し、みんなで話し合っています。転倒しやすい方にはヘッドガードをつけて見守って欲しい、牛乳の飲みにくい方にはスポーツドリンクで代替して欲しいなど、家族の要望にも応えています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めています。新しい職員が入る時は業務マニュアルに沿って、スムーズになじめるように工夫しています。認知症の利用者にとってなじみの関係は大切なことで、今後とも異動を最小限にすることが期待されます。職員の異動時には「緑樹だより」にて報告したり、家族の訪問時に報告したりしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年6回以上の研修を実施するなど、職員育成に取り組んでいます。大阪認知症高齢者グループホーム協議会の会員であるため、計画的な研修受講の機会があり参加しています。受講内容は整理し、職員間で共有しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加入しています。寝屋川市の連絡会には年1回参加しています。今後は運営推進会議のメンバーや市の協力も得て、地域の同業者との交流を深めていくことを検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居までに面接や相談の機会を多く持っています。職員はできるだけ自宅に訪問し、事前に本人と面接する機会を持ち、地方(宮崎県、秋田県など)から家族が呼び寄せて入居に至るケースもあり、本人との事前面接は困難な場合もあります。今後は体験入居の検討もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場 におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀 楽を共にし、本人から学んだり、支え あう関係を築いている	書道の得意な方には歌詞カードや納涼祭の看 板を書いてもらったり、調理の得意な方から 巻きずしの巻き方を教えてもらったり、裁縫 の得意な方にはズボンの裾上げや雑巾縫いを してもらったり、寮の管理をされていた方 には見回り点検の仕方を教わるなどして、利 用者と職員が支えあう関係作りをしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、 意向の把握に努めている。困難な場合 は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、状況把握に 努めています。利用者の言葉や表情から読み 取ったり、確認したりしています。意思疎通 の困難な方には、家族や周囲の関係者から情 報を得て、入居に至るまでを記述しています。 また、「私の基本情報シート」や「家族シート」 「生活史シート」「私の暮らし方シート」を 活用しています。「今」の生活を安定させるこ とに力を入れています。個人別情報を作成して、 昔話や好きなことなどを随時追加していま す。また、職員全員で確認して把握していま す。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全体会議に職員が参加し、介護計画を作成しています。また利用者や家族の意見を取り入れて反映させています。また、アセスメントシートも作成、利用者の生活歴、ライフスタイルについても記載されており、利用者が望まれる生活を取り入れています。作成した介護計画について、利用者や家族から同意のサインを得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画については3ヶ月から6ヶ月ごとに見直しを行っています。目標については、日々の記録や週ごとのミーティング、不定期の会議での話し合い、利用者の状態変化や状況、家族や利用者の要望に応じて見直しています。アセスメント記録、カンファレンス記録、モニタリング記録や見直された介護計画書もあります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自治会長を通して地域住民の相談を受け、介護全般や認知症高齢者の対応等、情報提供をしています。また、近くの府営団地の住民からは直接相談があります。地域での交流が多くなりホームの認知度も増し、相談を受けることで地域のニーズを把握し、今後の支援について検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に内科医の往診があり、診察や指導を受けています。また、家族や利用者の希望でかかりつけ医に受診できるように対応しています。緊急時のために入院設備のある病院との連携も確保しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では職員で幾度かに渡り、重度化を課題に話し合っているところです。家族には、症状が重度化した時は特養や病院に移動してもらうよう説明しています。	○	現時点で重度化や終末期の対応に取り組みが困難であっても、利用者や家族の意向確認を行い、医師や看護師を交えて話し合うことが求められます。急変時の対応など利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、課題として検討することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが勉強会やミーティングの際にプライバシーに関する意識の向上を図るよう心がけています。また、日々の介護の場面でも利用者を尊重した対応を心がけています。誇りやプライバシーには注意を払い、職員の言葉使いも丁寧です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課は決まっていますが、利用者一人ひとりのペースを大切に、できるだけ個別に配慮した支援を行っています。食事時も、ゆっくり摂られる方はテーブルを離し、時間をかけて食べられるように支援していました。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食ともホームで調理し、できたての食事を提供しています。利用者は皮をむいたり、豆のスジを取ったりするなど得意なことを手伝っています。また、芋ほりで収穫したサツマイモは天ぷらや焼き芋にして食していました。食後は利用者が食器を運んでいました。献立については利用者の希望を取り入れて作成しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としています。時間は午前9時半ごろから夕方3時ごろまでの間に、利用者一人ひとりがゆっくり入浴できるよう支援しています。今後はさらに入浴を楽しめるよう風呂場の雰囲気作り(香り、色彩など)を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることを大切に、庭の手入れや野菜作り、調理の手伝いを共に行っています。書道の好きな方には書いてもらう場面を提供し、洗濯物を干したりたたんだり、とそれぞれ活躍の機会があります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は田んぼや畑が広がっていて散歩コースになっています。また、その日の天候にもよりますが、近隣のお店に行ったり、銀行や美容院にも出かけたりしています。月2回町内会の喫茶も楽しみのひとつとなっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の評価で改善項目になっていた施錠の問題は、職員の意識向上や努力により全面的に改善しています。日中は基本的に開錠しており、開放感があります。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時訓練については、利用者も含めて定期的に避難訓練をしています。消防署の協力も得ています。非常用飲料水や非常用として利用できる食品など、備蓄もあります。近くの小学校を避難場所として提供があり、ホームの利用者のために非常食も保存するとの申し出があるなど、地域からの協力も得ています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量や水分摂取量を把握しています。旬の野菜を中心にバランス良く献立を立てています。体調面に配慮した食事量も考えています。	○	提供した食事の内容について時々専門家の意見を聞かれることが求められます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々として採光も良く、周辺の山や畑の緑があり、四季を通じて楽しめる雰囲気です。全室バリアフリーとなっていて、全室にトイレと洗面所が設置されています。庭で咲いた菊の花が玄関やリビングに飾られて、家庭的な雰囲気でした。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は様々で、ベッドで休まれる方や、畳部屋で押入れから布団を出して休まれる方等、自分に合った生活を選んでいます。自宅で使っていたタンスやベッド、テレビ、家族の写真や仏壇、冷蔵庫を持ち込んで、居心地の良いよう工夫していました。		